

北九州市立ユースステーション指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和7年10月3日（金） 15:25～17:25
- 2 場 所 北九州市役所 11階 121会議室
(北九州市小倉北区城内1番1号)
- 3 出席者 検討員：阿南検討員、小竹検討員、大久保検討員、板木検討員、
壺岐尾検討員
事務局：子ども家庭局こども若者育成課長、管理係長、担当職員
- 4 会議内容
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について事務局より説明
 - 検討員の互選により、座長の選出（座長：阿南検討員）
 - 提案概要に関して応募団体よりヒアリング

【特定非営利活動法人 里山を考える会】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 「探究事業」があるが、具体的にどのようなことを行っているか。

(応募団体) 高校の授業で探究事業というものがあるが、問題解決のプラン作成までで終わっている。私どもは、高校と企業をつないで、企業のテーマをどう解決していくかが一番大事なところだと考えている。例えば、最近の事例を一つあげると、企業から乗降客の減少に歯止めをかける施策の提案という課題をいただいた。そこで、高校の生徒の通学コースになっているということもあり、課題解決の提案を行っている。このように企業の協力を得ながら、学生の提案が実社会の問題解決につながるという経験を提供している。

(検討員) 「居場所」という機能についてどのようにとらえているか。

(応募団体) 利用者と主に接する受付窓口のスタッフの年齢が近いため、いろいろなことを話している。話せる場所であるということが、こどもたちが居場所として非常に使いやすいということであると考えている。それが、口コミで広がった結果が施設利用者4万5000人を超えた実績に繋がっていると思う。

(検討員) 令和3年から指定管理者となったが、コロナの影響がありながらも集客が倍以上となっている。どの段階で新しい取り組みを採用されたか。

(応募団体) 指定管理者受託当初は、施設利用者数を増やすために、イベントで利用者を増やそうとしていた。しかし、利用者アンケートで「自宅で勉強できる場所が無いから、ユースステーションで勉強したい」という意見が多くあったの

で、指定管理期間を 1 年経過した時点で、イベントで施設利用者数を増やすのではなく、こどもたちの居場所となろうと切り換えた。

(検討員) 探究活動について、今後の事業の方向性等があれば伺いたい。

(応募団体) 高校が、個別の企業・地域団体にコンタクトを取ることは、なかなか難しい。逆に企業等もしかりであるため、ユースステーションが高校と企業等を繋ぐハブになりたいと考えている。

(検討員) 構成団体が 2 から 1 になったが、運営面での課題はあるか。

(応募団体) 今期は、特定非営利活動法人里山を考える会と一般社団法人進路・指導キャリア教育支援機構との比率が 9 対 1 という格好で共同事業体を構成した。

進路・指導キャリア教育支援機構は、探究学習等を一部担当した。同機構の活動拠点が北九州でなくなってしまうということと、事業領域が別のところを始めることとなったため、今期限りで共同事業体を解消することとした。

一方、里山を考える会も学校訪問を行う中で、探究学習についての知見・経験をつむことができおり、当会のネットワークをうまく使って、高校と企業との連携ができるという確信を得ている。

(検討員) アンケートは記入式のようなが、匿名性はどのように考えているか。

記入式だと、否定的な意見を出したい時も書きにくい部分もあると思うが、そういった否定的な意見のすくい上げはどういうふうに行っているか。

(応募団体) アンケートは匿名である。また、ポストの中に入れてもらうため、誰が記載したものかは分からない。記入式としているのは、回収率をとっているためである。ネットでのアンケートの場合、回収率が取れないため採用していない。

ユースステーションではアンケートについての回答掲示板を設けており、そこには、要望、否定的な意見まで含めて掲示している。種々の条件により対応できないものについては、その理由を回答しており、利用者に理解をいただいている。

【ユースミライ北九州共同事業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) カフェを将来併設していくことで、昼間の時間にコムシティを利用する社会人の方や高齢者の方がおりてきて利用するケースが想定されますが、その方が長居した時の対応策は何か考えているか。

(応募団体) カフェを 2 店舗やっているが、基本的にはお客様のニーズに合わせて接客というのが一番大事だとは思いますが、きれいな食器でおいしいものを食べることで、お客様の満足度は、一旦 80% ぐらいとなる。その時にお声掛けすると、結構スムーズに改善できる。

(検討員) 地域連携について、例えば、商店街と共同してイベントを行う等はどのようにして開拓してというイメージがあるか伺いたい。

(応募団体) 地域連携団体、NPO、大学、起業家、アーティスト等、地域連携先は多く有している。

(検討員) ユーステーションにおける居場所づくりというのをどのように考えているか。

(応募団体) 居場所づくりにおいては、一番大事なところは、若者世代のニーズをいかに反映させるかだと考えている。そういう意味では、我々は二十代で利用者の世代と近いと、対面でのコミュニケーションにより彼らの意見を得やすいと考えている。ユーステーションを見学した際に、試験前に、普段開放してない会議室まで開放していることを確認して、利用者数に比して施設が狭いと感じた。試験時等で黒崎のユーステーションのキャパが足りないときには、弊社が経営しているカフェを使っていただけたと思う。現管理者がイオンと提携してバンドバトルを行っているように、山田緑地で大きなイベントもできるので、街全体を活用して、いろいろな形の居場所を作っていこうと考えている。

(検討員) 今回3社で共同事業体を構成するが、本市又は他の自治体で3社共同での指定管理実績があるか。もし仮に初めてだったときにどのような会社での連携工夫を取りながら事業を進めていくか。

(応募団体) 3社で共同事業体を構成するのは今回が初めてである。構成団体間では、事業経営を複数年にわたって行っている。

(検討員) ユーステーションの人員配置が足りるのかなという印象がある。イベントや事業実施の際に、人手が不足する場合はどのように対応されるのか。委託されるのかとか、もしくは新規雇用を行うのかと考えてよいか。

(応募団体) 急きょ足りない時は、構成団体の事業所から派遣するように考えている。

(検討員) 現在は、若い方々を中心に動かれているということだが、高齢者や障害者の雇用促進も求められている。人材確保をどういうふうに考えているか伺いたい。

(応募団体) 雇用に関しては、オープンにしたいと考えている。基本的に年齢制限は考えていない。逆に、年齢が高い方が経験や考えがしっかりしているととらえている。従って、雇用に当たっては、運営がしっかり入って、世代間の意見を聴き取り、解釈してあげることで世代間の差はなくなるのかなと考えている。積極的にいろんな世代を雇用したいと考えている。

【株式会社日本施設協会】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) プレゼンの中で、ユーステーションの利用者はどちらかというと、できる子という印象があるとのことであったが、様々な人に利用してもらうため

の具体的な手だてを考えていれば教えてほしい。どうしても部活動は指導するものと、指導される者の間でいろんな問題が出てくると思うが、何かトラブルあった時の対応について伺いたい。

(応募団体) 様々な分野の方々から、この分野では協力できるという、関心表明書をいただいている。そういった各分野のエキスパートを講師やアドバイザーになっていただき、利用者のニーズとマッチングさせて、部活動なり、事業なりをくつつけていき、広げていきたいと考えている。また、ミクニスタジアムの運営の際に、フリー運営ミーティングという活動を行って成果を上げている。ユースステーションにおいても、利用者のやりたいことを施設の施策に反映させる場として機能させたい。また、武蔵野プレイス等の施策も参考にしていきたい。

(検討員) 武蔵野プレイスからは、どのようにして施設運営のノウハウを得ようとしているか。

(応募団体) 武蔵野プレイスは図書館という扱いになっており、私も図書館長を歴任している関係で、全国の図書館業界の繋がりの中で武蔵野プレイスの館長と面識があるため、そちらからのノウハウの取得を検討している。

(検討員) 所長候補の雇用形態はどのような形を考えているか。委託か。

(応募団体) 正社員としての雇用である。

(検討員) ユースステーションの人員が不足した場合の対応策について伺いたい。

(応募団体) もし指定管理が当社に変わった場合、今現在活躍をしているスタッフの方で、弊社への移籍をしていただくというのが第1である。

そして、それ以外、どうしても例えば足りないという場合は一般に広く募集をしていくが、図書館、ミクニスタジアムで、雇用している人材がいるので、仮に不足した場合でも、すぐに補充できる。

また毎週、オンラインで全施設の管理職が懸案事項等を共有する事務会議を行っているので、すぐさま問題の解決に対応が可能である。

(検討員) 部活動など新しい事業を考えられていると思うが、既存の活動そのものをどうするかを伺いたい。

(応募団体) 今の利用者でニーズがあるものについては、続けていきたいと考えている。

(検討員) 自動販売機は置かずに、カフェ部がカフェを運営するとの説明があった。もし成立しない場合はどうするのか。カフェは、食品衛生管理者資格が必要だと思うがユースステーションで提供は可能か。

(応募団体) カフェ部が成立するまでの間は、飲料が必要な利用者は、コムシティとか黒崎商店街で購入してもらえれば良いと考えている。施設の方に必要な設備があれば可能であると考えている。

(検討員) 居場所についてどのように考えているか伺いたい。

(応募団体) 基本的に、人と触れ合いたいけど触れ合えないという若者たちの心理をどのようにつかむかということが重要だと考えている。居場所に行った時に、何の情報もない、自分がそこで触れる形の施設になっていない場合だと困る。

例えば、進路についての情報があるとか、サードプレイスとして使いたい人のための講座が用意してあるというように、居場所になる施策をちゃんと用意するということが重要だと思う。サードプレイスだから来ていいよと言われて来たけど何もなかったでは、サードプレイスになれない。その点でも、武蔵野プレイスはものすごく勉強する対象になる。

○ 検討員は、各自得点を記入したものを発表。その後、検討員全員で意見交換

(検討員) ユースミライ北九州共同事業体は、新しいものを組み込むところは、一番面白そう。

里山を考える会は、学校と連携して、きちんとその学校のニーズに対応して、足りないものを補完していくみたいな視点が面白いと思う。

日本施設協会が、居場所というものに対して理解が高いと感じた。

(検討員) 里山を考える会は、イベント偏重になってきていないかなっていうのがちょっと不安である。

ユースミライ北九州共同事業体の方々の考えというのは、今の若い人たちにとって親和性があると思うので、新しいものが生まれて活性化しそうな予感はある。しかしながら、実現可能性について不安があるので、他の自治体でも良いから、今回の共同事業体の実績を見てみたいと思う。

日本施設協会は、図書館などをやっているから手堅いが、内容がフリースペースを作るとか、部活動の子にカフェをさせるとか、リスクがあるように感じる。

(検討員) 里山を考える会は、高校との連携がうまくとれていると感じる。ユースミライ北九州共同事業体の提案は面白いとは思いますが、3社が実際運営になった時に、若い人が中心なので、うまく調整や連携がとれるか不安がある。

日本施設協会からは、ユースステーション内の若者の活動の場として、部活動という提案があった。いろんな価値観がある子がいて、学校の中で人間関係ができていながらも、揉めることがあるので、部活動制度の提案に難しい側面もあると思う。

里山を考える会は、収益も上がってきているというところで、安定感はあると思う。ただ、基本に立ち返って、若者たちの居場所づくりっていうところをもうちょっと大切にすることもしてもらえたら良いと思う。

(検討員) ユースミライ北九州共同事業体については、既存のものを変えるときには、若者たちのパワーって必要だと思うが、状況を俯瞰して落ち着いてみる人材が必要だと感じる。年齢層の幅があれば、このパワーを活かせると感じる。

日本施設協会は、図書館、ミクニスタジアムの運営を手がけているというところもあって施設の運営に安定感がある。ただ、部活動といった、何かや

るための理念は尊重したいが、若者たちが、何かを自分たちから始めることがすごく難しいことを現場で感じている。そして、それをつなげていくとなった時に、どのようにサポートできるかが分からなかった。

- 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定
- 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

〔総合的な所見〕

ユースミライ北九州共同事業体は、ユースステーションの運営実績はないが、代表団体が全国的な施設運営の実績を有する企業であり、十分な適性が見込める。特に、キャリア支援といった実績に基づいたプログラムの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

株式会社日本施設協会は、ユースステーションの運営実績はないが、北九州市において小倉南図書館の指定管理をはじめ、ひびしんホール、ミクニワールドスタジアムの受託・運営を行っており、十分な適性が見込める。特に、図書館運営のノウハウが活かされたサードプレイスとしての居場所づくりとの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

一方で、特定非営利活動法人里山を考える会は、現指定管理者であるユースの未来共同事業体の代表団体であり、これまでの実績から、安定した運営基盤を有していることが評価でき、また、中高生の探求事業、キャリア支援事業というキーワードで幅広い年齢層の受け入れを目指す工夫も見られた。

最終的には、提案内容について、利用者の成長を促すことに着目した理念や、プログラムの魅力とその開発への積極的な試みの点で、両者の評価に差があると判断した。

以上により、検討会としては特定非営利活動法人里山を考える会が指定管理者として相応しいと結論づけた。

- 事務局から、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了